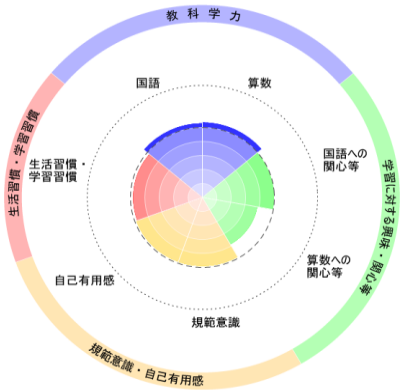


(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○：成果、●：課題)	対 策
国語	○全体的に全国や県の正答率を上回っている。 ○教材と関連する図書の並行読みや日頃の読書指導により、読む力に優れ、特に目的に応じて本や文章全体を概観して比べて読むなど効果的な読み方を工夫できる。 ○授業をきっかけとして、ことわざや慣用語、故事成語に関心をもち、それらの意味を理解して使うことができる。 ●漢字を覚えることはできても、それを文の中で正しく使う力が十分でない。 ●自分が調査したことをまとめ、報告する際にその目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、まとめて書く力が十分ではない。	・国語科での新出漢字の学習の内容を充実させ、月に1回の全校で取り組む漢字会を活用して漢字の習得を図ると共に、文章を書く際には、覚えた漢字を積極的に使っていこう指導を重ねる。 ・国語科において、自分が調査したことを目的に応じた図表やグラフを用いたり、自分の考えとその理由を明確にして書く学習を充実させるとともに、他教科との関連を図って、実際の生活と結びつけた学習となるようにする。
算数	○各領域において、全国の平均正答率を上回っている。特にグラフから資料の特徴や傾向を読み取ったり、加法と乗法の混合した整数と小数を計算する力に優れている。 ○日常生活の問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見いだし、数学的に表現・処理して判断する力に優れている。 ●計算を能率的にするために、計算に関して成り立つ性質を見いだしたり、数や場面を変えても計算に関して成り立つ性質を活用できるかを考察する力は、十分ではない。 ●除法の式の意味の理解が十分ではない。	・月に一度の計算会の実施により、今後も四則計算の力の充実を図り、確実にできるようにしていく。 ・分かったことを、自分の言葉で表現することを大切にし、ノートへのまとめ方を工夫したりペア対話で伝えたりするようにする。 ・学習で得た考え方を他の場面で活用できないか考えたり、適用したりするような学習を展開し、数学のよさに気づいて生活や学習に活用できるようにする。

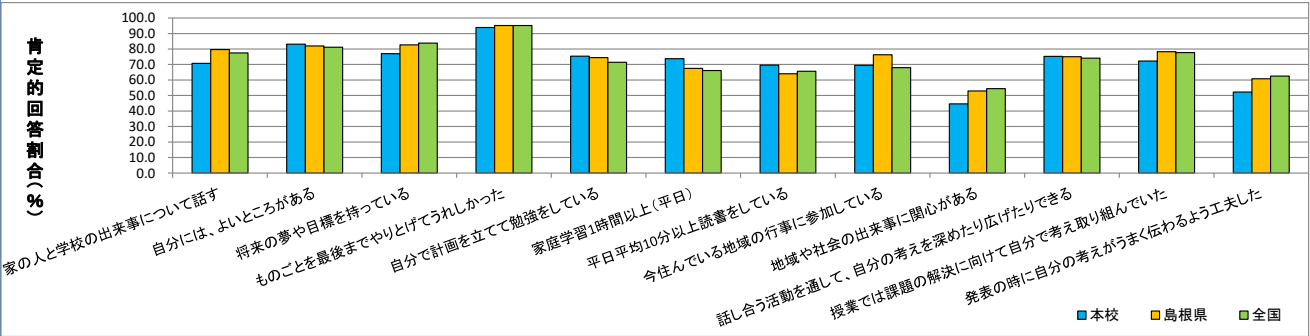
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・全教科に関わる読み取りの基礎となる国語力を高めるために、国語科の授業と読書の質と量が充実するようにする。
- ・対話を効果的に取り入れ、思考を深める授業の在り方を理科を中心として研究し、全教科で取り組む。

(3)意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	67	63	62	63.8
算数	69	66	65	66.6

受検者数 65 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。